

自分を好きになる

発行日 2019年8月31日

◎2 学期始業式

長い夏休みも終わり、27日（火）から2学期が始まりました。始業式では、学年代表者に決意発表や達磨に願掛けの目入れをしてもらいました。



始業式 校長講話

「カリヨン讃歌」復活

33日間にわたる長い夏休みも終わり、いよいよ今日から2学期のスタートです。今は夏の盛りですが、2学期が終わる12月27日は冬。夏から冬までの一番長い学期。83日間あります。その間、大峰祭あり、新人戦あり、生徒会の引継ぎありと行事的にも多くのイベントがありますが、3年生は受験準備で、学習も充実する学期です。一人一人、大志を育むよう、目標を持って生活していきましょう。

さて、2学期のスタートに当たり、今日は、「カリヨン」についての話をします。

これがカリヨンですが、「カリヨン」は、皆さんが毎日登校したとき、下校するとき通る昇降口の広場の中央の時計台の上にあります。中央広場を「カリオン広場」と言っていますが、平成5年の新校舎建設当初は「カレッジプラザ」と名づけられていました。しかし、象徴的な「カリヨン」があることからいつからか「カリヨン広場」と呼ばれるようになりました。

カリヨンとは、フランス語で、【carillon[フランス]】鐘を組み合わせた打楽器の一つです。欧州の教会や庁舎などの塔によく設置されており、機械や鍵盤で鐘を打ち鳴らして奏でる鐘のことです。

私が坂中に来た3年前は鳴っていませんでしたが、一昨年、平成29年の大峰祭の時に「カリヨン」を復活させ、今は、朝、昼、夕の3回、朝は入室時刻の8時15分、昼は、昼休み終了の13時30分、夕は、下校時刻の16時30分に鳴るようにしています。

そのカリヨンに関連して、1階の多目的スペースに「カリヨン讃歌」という歌詞が書かれた大きな額が掲げられています。全校の人が目にしていると思いますが、実際、カリヨン賛歌を聞いたり、歌ったりしたことのある人はいますか。

額には作詞：犬飼康雄、作曲：平林尚志、（補作：藤森 章）と書かれています。犬飼康雄先生は平成5年新校舎改築の時の坂城中学校第10代校長先生。また、作曲した平林尚志先生は坂城中のその先代、第9代の校長先生です。また、補作した、藤森 章先生は吹奏楽指導の大

家でとても有名な音楽家です。二人の校長先生で新しい坂中の未来の繁栄を願って作ってくれたのだとわかりました。新校舎竣工式の平成5年の時、この「カリヨン賛歌」を全校で合唱したという記録も残っています。

その歌詞には、

【カリヨン讃歌】

- 1 自在山にこだまする、鐘の音は、千曲川の水面を、駆け巡る
日は昇り、希望溢れる、時は流れる、一日の力を漲らせ
- 2 優しさと厳しさに溢れ、鐘の音は、季節と人生、歌い合う
日は高く、生命育む、時は流れる、充実と安らぎ有る世界
- 3 命と地球を結ぶ、鐘の音は、たそがれの空遠く、消えて行く
夕焼けし、心豊かな、時は流れる、一日の感謝を響かせて

とあり、朝、昼、夕の時の流れに合わせ、坂城の自然、未来に向けた期待が歌われています。

そこで、全校の皆さんにお願いがあります。それは、是非、今年の大峰祭で「カリヨン讃歌」を復活させ、全校で歌ってほしいのです。

今年の生徒会テーマは「創造」。先人の思いを確かめながら、未来の坂中を創造しようとして取り組んでくれています。「カリヨン」はその象徴となるものだと考えています。

「カリヨンの鐘」が復活したのは、一昨年の大峰祭。

是非令和になった初めての大峰祭では、「カリヨン讃歌」を復活させ、今後、歌い継ぐことで、これから坂中で学ぶ坂中生に、坂中の歴史を想い、新しい時代の坂中を創造し続けて欲しいと願っています。

坂中を通じて作り上げてきた先人の思いに心をはせ、過去から未来に向けて坂中の伝統を創造するように、2学期、生活していきましょう。



◎長野県吹奏楽コンクール地区大会の結果 銅賞

◎北信越大会の結果

陸上	1年女子100m	金子 亜瑠	7位	13秒40
	共通女子走幅跳	牧内 愛実	4位	5m24
		富山 萌衣	6位	5m15
	共通女子 4×100mR	富山萌衣 牧内愛実 宮下留花 宮原凜成	3位	50秒44
剣道	女子個人	近藤咲紀	5位	